

【C年】

聖霊降臨後第九主日

特定十四

永遠にいます全能の神よ、わたしたちに信仰と望みと愛とを増し加え、またあなたが約束してくださるものを得るためにあなたが命じられることを愛させていただきます。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

旧約聖書

朗読者 「旧約聖書は創世記第十五章一節から」

1 これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。

「恐れるな、アブラムよ。」

わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」

2 アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるといいますか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」<sup>3</sup> アブラムは言葉をついだ。「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんか。家の僕が跡を継ぐことになっていきます。」

4 見よ、主の言葉があった。

「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」

5 主は彼を外に連れ出して言われた。「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あなたの子孫はこのようになる。」

6 アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

朗読者 「旧約聖書を終わります」

詩篇

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第一〇五編 一節〜八節

1 主に感謝してみ名を呼び＝ 諸国の民に神のみ業を告げ知らせよ

2 賛美の歌を神に歌い＝ そのすべての不思議なみ業を語れ

3 尊いみ名に栄光あれ＝ 主を捜し求める者よ、心から喜べ

4 主にその力を求め＝ 常にみ顔を慕い求めよ

5 神が行われた不思議なみ業を思い起こせ＝ 救いのしるしと審きの言葉を

6 神の僕アブラハムの子孫＝ 選ばれた者、ヤコブの子らよ

7 主はわたしたちの神＝ その審きは世界に及ぶ

8 神は契約をとこしえに守られる＝ その契約は世々に及ぶ

### 使徒書

朗読者 「使徒書はヘブライ人への手紙第十一章一節から」

1 信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を  
確認することです。 2 昔の人たちは、この信仰のゆえに神  
に認められました。

3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉に  
よって創造され、従って見えるものは、目に見えているも

のからできたのではないことが分かるのです。

8 信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐこととなる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。 9 信仰によって、アブラハムは他国に宿るようにして約束の地に住み、同じ約束されたものを共に受け継ぐ者であるイサク、ヤコブと一緒に幕屋に住みました。 10 アブラハムは、神が設計者であり建設者である堅固な土台を持つ都を待望していたからです。 11 信仰によって、不妊の女サラ自身も、年齢が盛りを過ぎていたのに子をもうける力を得ました。 約束をなさつた方は真実な方であると、信じていたからです。 12 それで、死んでも同様の一人の人から空の星のように、また海辺の数えきれない砂のように、多くの子孫が生まれたのです。

13 この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。 約束されたものを手に入れませんでした。 14 このように言ひの声をあげ、自分たちが地上ではよそ者であり、仮住まいの者であることを公に言い表したのです。 15 このように言う人たちは、自分が故郷を探し求めていることを明らかに表しているのです。 16 もし出て来た土地のことを思っていたのなら、戻るのに良い機会もあったかもしれませぬ。 17 ところが実際は、彼らは更にまさった故郷、すなわち天の故郷を熱望していたのです。 18 だから、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませぬ。 神は、彼らのために都を準備されていたからです。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。  
ここで聖歌を歌う。

## 福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第十二章三十二節以下に記された主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

32 小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。33 自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。34 あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」35 「腰に帯を締め、ともし火をともししていなさい。36 主人が婚宴から帰って来て戸をたたき、すぐに開けようと待っている人のようにしていなさい。37 主人が帰って来たとき、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。はつきり言っておくが、主人は帯を締めて、この僕た

ちを食事の席に着かせ、そばに来て給仕してくれる。38 主人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、目を覚ましているのを見られる僕たちは幸いだ。39 このことをわきまえていなさい。家の主人は、泥棒がいつやってくるかを知っていたら、自分の家に押し入らせはしないだろう。40 あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけない時に来るからである。」

司祭 「主に感謝」  
会衆 「主に感謝します」